



王であるキリスト

委員会だより

- △ 9月10日(日) 9名出席 ✓
- 連絡事項…
- (1) 行事計画…
- 連絡事項…行事計画
- ◆ 10月主日ミサ前「ロザリオの祈り」
- ◆ 10月29日(日)バザー(前日28日バザー準備日ミサ15時)
- ◆ 11月05日(日)七五三
- ◆ 11月12日(日)死者のためのミサ
- ◆ 11月26日(日)に3名、12月3日(日)に1名各々初聖体

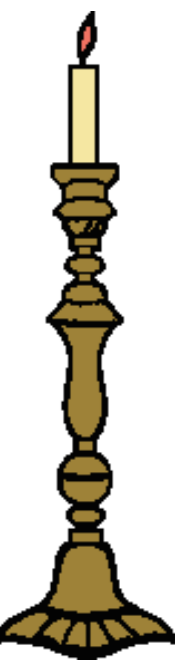


- 審議事項
- (1) 「委員会後記ご意見箱」のご意見について…(「委員会後記参照」)
- (2) 中和田カトリック教会委員会運営規定見直し…
- ◆ グループ再編+事務グループ新設
- ◆ 要理グループ… 宣教グループに入れ、一元化して運営
- ◆ キリスト教講座は一般宣教活動に包括されているが、宣教グループのミッションの中で明記した方がよい(鈴木神父)。(注)尚「一般宣教活動」については、手不足等の中和田固有の実情もあり、出来る範囲で前向きに対応していく)
- 各グループ連絡・報告事項
- a. 典礼G・(布教G)…
- ◆ 10月「ロザリオの祈り」
- ◆ 聖書朗読後に黙想時間をする
- ◆ 第14回秋期典礼研修会出席報告(別資料)
- b. 行事G…「敬老のお祝い」報告・「バザー」の準備状況
- ◆ 敬老のお祝いの報告(9/17実施)
- ◆ バザー準備報告(ポスター、招待状、バザー券増刷、保健所申請など)
- c. 財務G… 予算進捗報告・予算執行の順調に推移、次年度繰越金は対予算10%増加の見込み
- d. 要理G… 11月19日(日)第五地区要理学校リーダー会(@大船教会)

- ◆ 11月に芋堀をさせて頂いた。バザーで、紅茶・ケーキコーナー販売は子ども達に任せたい。また、小さい子どもの居場所がないのでゲームコーナーも作る。
- ◆ 11/3にリーダー研修(晴佐久神父様)
- ◆ 堅信準備クラス…11/11・12に神山復生病院訪問、歴史も学ぶ。対象は中学生以上だが、場合によっては小学生高学年も含めることを検討中。上述の通り、初聖体対象者は計4名となった。
- e. (事務G)…
- (a) 2007年度教会委員の公募について(委員は来年1/28信徒大会で決定) 議論の結果、委員長、副委員長は公募、各委員はグループ推薦を基本とするが、推薦方式の併用なども検討していく。再度11月度委員会迄に検討して打合せ。
- (b) 聖体奉仕者の募集(広報なかわだ10月号後記で内容説明済み) 聖体奉仕者の教区研修もあり、いつ行われるかは未定だが、中和田でメンバーを予め決めておきたい。
- (c) 今年度審議事項のフォロー
- i. 委員会が旧マリア会から引き継いだ寄付の件
- ii. 教会案内係の件
- iii. 月定献金検討グループ進捗状況…世代間の差が大。
- iv. 営繕の関係
- その他…
- ◆ 横浜教区福祉委員会(ZEMS)紹介
- ◆ 2007年度堅信・梅村司教、鈴木神父ご都合により、来年5月を軸に調整中
- ◆ 共同宣教司牧養成講座
- ◆ ヘルパー養成講座に岩崎さんが参加
- ◆ 来年度予算申請…各グループから11月委員会迄に提出して欲しい
- ◆ 集会祭儀に関するアンケート結果が教区から来ているので、見て欲しい

「死者の月」に思う

パウロ たかの てつお



小学生の頃、私は剣道の道場に通ってました。泣き虫だった私を何とか強くさせたいと、姉が入るのをきっかけに、母親の勧めで一緒に通い始めたのでした。

数年後、試合にも出場できるようになった頃、ある大会で、一回戦を勝ち、次の試合が自分の二回戦の試合となり、ドキドキしながら試合場のそばに立ってました。すると、道場のおじいちゃん大先生が私の後ろに立ち、私の両肩に手を置いたのでした。

泣き虫だった私ですから、ちょっと怖そうな先生に稽古をつけてもらう時は、泣きながら稽古をしたものでした。でも、子ども心に、怖そうで稽古も厳しいけど、自分の事を期待してくれている先生か、そうでない先生かはなんとなく感じていましたし、自分も期待されることは嬉しいので、怖くても勇気を出してその先生の列に並ぶのでした。

道場の先生は、当時の私にとっては近寄りやすい存在でした。いつも、畳に座って子どもたちの稽古を厳しい目つきで眺め、時折怒ったり、…、私のことも心には留めていないのだろう、…と。だから、大先生が私の後ろに立ち、私の肩に手を置いたとき、正直「嫌だな、…なんで来たんだろう、大先生が…」と思いました。そして余計に緊張して、結局負けてしまいました。(大先生が居なくても負けていたでしょうが。)負けた後、大先生は、私に何か声を掛けてくれたか、何も言わずに他の子どもたちの試合を見に行っただけはわかりません。あの「違和感」だけが残ったままでした。

それから私も大きくなり、その間に大先生が亡くなり(親と一緒に葬儀に参列したか記憶が曖昧ですが)、ずいぶんと年月が経ってからですが、ある時、「大先生は、実は自分の事を期待して、目に掛けてくれていたんだ…」と言う事を素直に認めることができるようになったのです。それが、真実かどうか確かめることはできませんが、その時に残った違和感はすっかり解けてしまいました。

私たちは、たくさんの人、出来事と出会いますが、その時の自分の状況によって、その場の理解は大きく変わります。実にいい加減です。しかし、どんなに理解がいい加減でも、そこに主の業が働いている事を信じたいと思います。そして、その希望が私たちの交わりを真実なものへ、より深く導いてくださるのでしよう。

11月は「死者の月」と言われています。死者を思い、靈魂の安息を願うと同時に、関わりの中に働き、関わり・交わりを祝福して下さる主の慈しみに思いを馳せたいと思います。

- ◆ ご降誕前の大掃除… 12月23日 10:00amから行う
- ◆ 藤沢教会の「センター化」の件: 「どういうセンターにしたいですか?」という問い掛けに答えて欲しい(鈴木神父) 別途、アンケートが来る。

06年9月委員会後記 下村委員長

今月の委員会後記は、既に記した「委員会後記」ならびに委員会に対するご意見・ご要望」と「教会内掃除」につきまして、次のように取り扱うこととしました。

ご協力を、宜しくお願いいたします。

一点目の「委員会に対するご質問・ご意見・ご要望」は、

◎「典礼関係」の2件(□…ご意見要旨) ★…審議結果)

□ミサの中でパンとぶどう酒が会衆に示される時、ひざまずいて祈った方がよい。

★当教会の椅子は折り畳み式パイプ椅子です。(長椅子等のように腕き台が付いていません)このため、ひざまずいたら立ち上がり、このため、が予想されます。現在の「典礼解説書」にも「起立したままの良」と「とされていきます。これらのことから従来とおりと致します。

□ミサ閉祭時のお知らせは、派遣の祝福前は簡単に、長くなるお知らせはミサ終了後に。

★ご趣旨に添い、典礼グループで徹底いたします。

◎「教会設備関係」の2件

□お聖堂の冷房が、かなり寒く感じるものがある。

★教会委員が散らばって座っておられますので、声を掛けていただければ対応いたします。

□掲示板によるお知らせは、4枚

- ある掲示板をグループ別に整理して掲示をしたら良い。
- ★広報グループで検討しております、もう暫くお待ち下さい。
- 二点目の教会内掃除については、10月15日ミサ時にお知らせいたしましたように、
- ◎土曜日の掃除
- ★第一週は、初金ミサ後。他週の土曜日は9時30分より行っています。
- ★掃除メンバーの募集:メンバーが不足していますし、男性の参加がありません。
- 特に、男性の参加を望みます。ご協力いただける方は、集会所のメンバー表に記入して下さい。
- ★その他:掃除時に「スリッパ拭きが大変」との意見が有ります。
- 現在常備されているスリッパは傷みも進んでおるとともに、数量も不足してきております。(復活祭等スリッパが不足する時があります) そのため、「個人持ちスリッパ(ご本人が管理する)」をお願いしたいと思います。(新たに来られる方のため「新規にスリッパを購入する」ことは、今後検討して行きます。
- (参考:以前の委員会の意見)「スリッパでなく土足にしては」との提案も有りましたが、「雨天後の掃除が大変である」との意見があり、もう暫く現在のままにすることにしています。
- ◎日曜日の掃除
- ★日曜日ミサ後の掃除は、現在毎週実施しておりますが、土曜日の掃除を充実して日曜日は、毎月第四日曜日のみ行うこととしました。
- また、当日の連絡は聖堂玄関に「掃除協力札」を掲げ、徹底を図る予定です。

最近心に残ったこと



小野寺 功



ボッシュタウン(かまぼこハウス)
背景はイグナチオ教会

*その1 ボッシュ神父のパイプ

この夏のある日、当教会の大先輩である東原秀夫さんから、上智大学のボッシュ神父さん愛用の遺品であるパイプをいただきました。たかがパイプと言われそうですが、私としては、忘れ難い思い出と結びついています。

戦後の混乱が続く昭和20年代の半ばに、大学の進路に迷っていた私は、盛岡の古本屋で偶然「カトリック・ダイジェスト」という雑誌を手にして、上智大学の存在を知りました。外国人教師が多く、ボッシュ・タウンという学生寮があり、寮費が都内で一番安いというのが魅力的でした。

合格通知を受けて、入学間際に上京し、入寮の申し込みをしましたが、すでに満杯で締めきったということでした。貧しい私にとっては、万事窮すという事態でした。寮長も気の毒に思われたのか、一度舎監のボッシュ神父に会ってみるよう言われ、司祭館を訪れました。

いかにもドイツ人らしい堂々たる風貌で、じつと私の訴えを聞いていたボッシュ師は、「わたしが今、ノーと断ることになったら、今晚君は上野の地下道か？」と笑われました。当時の上野駅の地下道には、家を失った浮浪者があふれていましたから、妙に現実感がありました。

私も「ハイ」と応じたら、神父さんは急に真顔になり、しばらく思索した後、「寮はいっぱいで余地はない。しかし、体調を崩して一時帰郷している学生が一人いるから、荷物はあがるが、一時そこに入れていなさい。その中、退寮者が出るかもしれないから」といって入寮を許可されました。そしてこれが私のカトリックとの最初の出会いでした。

大先輩の東原さんは、戦後復員しても住所もなく、食糧難に苦しむ学生のために、学生寮設立をめざしてに奔走し、献身的に働かれたかを熟知されていたのだと思います。

学生から「親父」と慕われていたボッシュ神父は、昭和33年に48歳の若さで急逝されました。今、

大学の司祭館前の緑地の一角に胸像が建っていますが、私が上智を訪ねたときは、必ず立ち寄って挨拶をしています。

今改めて、私の机上にあるパイプは、私を励ます最上の贈り物となりました。

*その2 洗足式の光

そのことは、忘れもしない4月13日、復活祭前の聖土曜日の御ミサの時のことです。教会に着いたら、係りの竹内廣治さんから「今日は洗足式がありますから、前の座席について下さい」と言われました。聖書朗読はヨハネ13章の「イエス弟子の足を洗う」という箇所が読まれ、ひととき静寂な心に沁みるミサでした。

渡邊神父様がバケツを持たれ、一人ひとりの足を洗っていき、私の番になりました。足に水が注がれ、丁寧に拭き終わった時、何の理由もなく、今まで経験したことのないある「光」を体験しました。これが何かはよくわかりませんが、教会に対するある「希望の光」であると思われました。

権威ある司祭が、身をかがめて信徒の足を洗う。この逆説の中に、あるべき教会の姿が示唆されているように思えたからです。

*その3 サロンの場で

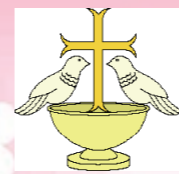
最近私は、ライフワークである「日本人とキリスト教」をテーマに、「大地の文学」や「聖霊神学」に続く著作と取り組んでいます。

今回は、年のせいかな筆が進まず、えらく難渋しました。いつかサロンの場で、コーヒーの気易さから思わずその悩みを口にしてしまいました。ところが、これを聞いていた小谷さんから「それを年のせいにするとは何ごとですか。その若さで・・・」と叱られてしまいました。なるほどと思い、「年のせい」は私の中で禁句になりました。

黙想会の時、ペトロ神父様は「老年は若さに向かって歩む」と言われましたが、この言葉こそ、今の私を照らす光です。

長男・貴大の幼児洗礼

保科 桂子



私は、今年の復活節の土曜日に次男の春希を出産し、現在育児休業をいただいて、子育てに励んでいるところです。長男の貴大(現在4歳です)の洗礼のことを思い出しながら、書いてみたいと思います。

ところで、私自身の洗礼は2歳の時に戸塚教会で木村神父様に授けていただいたとのこと。宮下神父様や山崎神父様のお導き、当時水曜日にあった要理学校に通えない私のために木曜日にご指導して下さった佐藤さん、教会や信者の友だちや先生・先輩後輩といった関わりの中で、私の生活にとって教会や信仰は、あたりまえのものとして根付いてきました。(家族、とりわけ、教会の送り迎えをしてくれた父の力は大きいと思います。信者でもないのに、当時家族の中で一番教会に行っていたくらい、父には支えてもらいました。)今まで生活してきた中で、悩んだり不安に思ったりすることがある度に、「神様何とかして下さいね」と思える相手がいたことは、なんと幸せだったことでしょうか。そのときは苦しく、「神様は何もしてくれない」とか「今頃になって」とか思うことも度々。でも、振り返ってみると気が付くことも多く、『神のなさることはすべて時宜にかなって美しい』と納得してばかりいるようです。

ただ、信仰はありがたいものと思っても、幼児洗礼の私には、自分の意志で洗礼を受ける友だちがうらやましくてうらやましくて仕方ありませんでした。もし自分が親になったら、子どもには、洗礼を受けたいと思えるよう育てていきたいと考えていました。

さて、実際に親になってみると、現実の厳しさに直面しました。自分が親として、人間として、未熟である。こんな親が、こんな厳しい社会の中で、一人の人間を育てていくことは、容易ではないと感じました。また、一日一日を生活していくのに精一杯で、とても「洗礼を受けたいと思える」ように育てるどころではないのです。

やはり自分がそうであったように、この子にも、「神様何とかして下さいね」と思える相手がいる方がいいのではないかと、神父様や教会の皆様いろいろな場面で関わっていただく方がいいのではないかと感じました。親として教会に行くというきっかけを作ってあげることが、この子の生活に、神様や教会やたくさんの人との出会いがあるのではと思って、1歳5か月の時に受洗のお恵みをいただくことにしました。

もちろん本人は自分の洗礼の時のことを覚えていませんが、今年の復活祭にいとこが受洗した後、アルバムの写真を見て「これはタカちゃんの時だね」と言ってみたり、このごろやっと自分で十字が切れるようになったり、心に残った聖歌を口ずさんだりして、彼なりに何か少しずつ積み重なっているようです。

どうぞ、健やかに育ちますように、助けていただけたらうれしいです。やっぱり、「神様何とかして下さいね」と思いながら、親としてがんばっていきたいと思います。

ヨゼフ会だより

- △ 9月24日(日) 9名出席
- 連絡/報告事項... 萩原氏ご母堂様のご葬儀お手伝いについて、同氏からの感謝の言葉が伝えられた。
- 審議事項... バザー対応体制(前日準備(10/28)及び当日(10/29)確認)
- * 特に、新しく中和田にいられた方々、及び若い世代の方々に声をかけていくことを確認
- 懇話会... 11月18日(土) 18:00 鈴木神父様予約
- 忘年会... 12月16日(土) 18:00 同様に懇話会形式
- 計画... 高野神父様にも出席のご検討をお願い中
- 当番表確認
- その他
 - 「何故若い世代の参画が少ないのか」について幾つかの議論があったが、結論としては「まず声をかけることから始めよう」ということ。
 - 東原さんから「毎朝、教会案内係として教会入口に立っているが、これによって中和田教会に來られる方々全体のことがよくわかるようになり、本当に良かった」とのお話があった。



バザー風景
10月29日